不登校の子どもや保護者を応援します！

春は、入学や卒業など子どもの生活にも大きな変化があり、期待と不安が入り混じる季節です。不安や課題を抱え、不登校や登校しづらくなった子どもの居場所として、また、保護者を応援する場所として、市内13ヵ所で『ほっとスペース事業』を実施しています。

大阪市では、様々な理由から学校に行けない児童・生徒の比率が全国平均を上まわる状況です。すべての子どもの成長発達を保障するために社会全体で取り組んでいく必要があります。

不登校は、長期化する前の対応が効果的であるといわれていますが、不登校児童・生徒に対しては、各学校の担任、養護教諭やスクールカウンセラーなどが、家庭と連携しながら一人ひとりの相談にのり、その支援に努めています。思いもよらない子どもの突然の変化に、どのように対応すればよいのかわからずとまどったり、子育てに自信を失ったりする保護者もたくさんいます。

このようなことから、『ほっとスペース事業』では、「学校に行きたくない」「ともだちとうまく行かない」など、子どもや保護者が抱えるいろいろな悩みについて、専門家を交え、解決策を見出していくお手伝いをします。また、経験豊かなNPO等の協力をいただきながら、不登校の子どもたちが安心してすごせる「居場所」の提供もおこなっています。

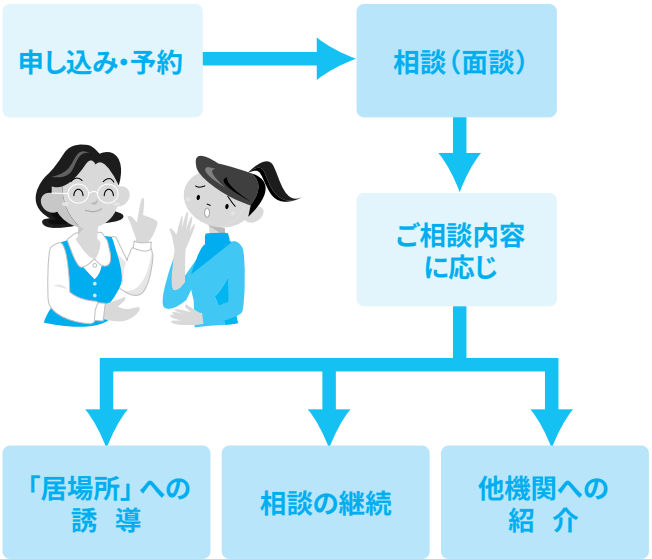
（こども青少年局 青少年事業担当）

■ ご利用について

対　象	大阪市内に住んでおられ、不登校など青少年育成に関わるさまざまな課題や悩みを抱えた青少年やその保護者、青少年育成関係者などが対象です。
申し込み	まずは電話またはFAXで相談（面談）の申し込みをしてください。 （財）大阪市教育振興公社 青少年事業部 TEL 06－6348－8123（相談専用） FAX 06－6348－0800
受付時間	月～金曜　10:00～17:00
相　談（面談）	申し込み予約完了後、相談開設日に面談をします。必要に応じて、「居場所」への誘導や関係機関をご紹介します。
利用料	相談は無料です。

■ ご利用の流れ

電話にて相談（面談）の予約をいただき、面談を受けていただきます。1回の相談（面談）は、おおむね60分です。相談内容に応じて、適切な援助を一緒に考えていきます。



おおさか歴史探訪⑫

大阪の史蹟や歴史資料を毎号連続でご紹介します。

めずらしいアール・ヌーヴォーのデザイン
－大阪市立工芸高校本館－

大阪市立工芸高校本館▶

大阪市立工芸高校は大正12年（1923）に開校し、翌年現在の校舎が完成しました。大正デモクラシーのこの時期は新しい教育運動が全国的に盛んになり、自由・創造・個性などを強調した教育が盛んになった時代でした。

校舎外観の大きな特徴は、3階部分にゆるやかな曲線をもつ急勾配の屋根が架けられていることです。一般にアール・ヌーヴォー（直訳すると「新しい芸術」）と呼ばれる建築様式で、重厚でありながらロマンあふれる造形といえます。玄関は大きなアーチで、屋根に塔屋を建て正面から観た姿を引き立てています。

このデザインの原型となったのは、ヴァン・デ・ヴァルデというドイツ人建築家がワイマールに建設した工芸高校の校舎で、とてもよく似ています。ここで新しいデザイン教育がすすめられたのですが、この運動は後にバウハウスというデザイン学校に発展し、日本人建築家や芸術家も大きな影響を受けました。また、この校舎は道路に面して配置されているため、外観がよく見えます。敷地のコーナーに玄関を置いて前庭は最小限にしていますが、このように道路に近づけて建物を配置するのは、学問、特に実業学校においては現実の社会と密接な関係を保つべきという意思を表したものです。

工芸高校の校舎から、新しい時代のデザイン教育の殿堂づくりをめざした、当時の教育関係者の情熱が伝わってくるようです。

（文:教育委員会文化財保護担当）